多喜二祭墓前と記念のつどい　6/5 開催

2021/5/7 イベント・観光, 文化・歴史・芸術

小樽多喜二祭実行委員会(荻野富士夫・琴坂禎子・倉田稔・寺井勝夫・中井秀紀共同代表)は、プロレタリア文学の代表的な作家・小林多喜二の没後 88 周年となる多喜二祭を、2021(令和 3)年度から 6 月 5 日(土)に変更することを決定した。

多喜二は、88 年前の 1933 年 2 月 20 日に侵略戦争に反対し平和を求め、治安維持法により特高警察の手で虐殺された。2 月 20 日の命日に多喜二祭の開催を続けてきたが、共同代表らメンバーの高齢化に伴い、厳しい寒さの冬を避け、多喜二の功績を讃える運動は続けようと、多喜二が墓を建立した 6 月 2 日にちなみ、今年からは、6 月 5 日(土)に変更して実施するとした。

同会の小樽商科大学・髙橋純名誉教授は、「若い人が多喜二の文学を知らないのは惜しまれること。多喜二を通じて、これからの社会を考えるべきで、より良い季節での開催を選んだ」と述べた。

同祭は、これまでの墓前祭を墓前のつどいに変更。今年の送迎バスは中止とし、各自、現地集合とした。13:00 から奥沢墓地の多喜二が建立した墓前で、恒例の赤いカーネーションを献花する。

この他の詳細については、8 日(土)開催の実行委員会で決定するが、牧野時夫さんによる多喜二の思い出曲、ショパンのノクターン第 20 番 嬰ハ短調(遺作)をヴィイオリンで奏でる。　記念のつどいは、市民センター(色 2)マリンホールを会場に、17:30 から 20:00 まで実施。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ホール定員半分の 225 名に限定し、事前チケットを 1,500 円で販売。当日券なし。チケット取扱いは、小樽運河プラザ内喫茶一番庫と小樽市民センター。

北海道在住のトリオ・マモーレ(ヴァイオリン:牧野時夫氏、ピアノ:安河内真樹氏、フルート・ソプラノ:瀧田まゆみ氏)による、コンサート「愛を込めて自然と平和を護れ、子どもたちの未来を守れ」を開催。

また、北海道の心臓と民の力～多喜二の見た小樽～と題して、小樽商科大学グローカル戦略推進センターの高野宏康氏による記念講演会を開く。

飲酒死亡事故から９年　令和３年度小樽商大追悼式

2021/5/7　スポーツ・教育, 文化・歴史・芸術, 注目記事, 社会･経済

https://youtu.be/vAo5RYmOouY

小樽商科大学(緑3･穴沢眞学長)では、2012(平成24)年5月に発生した飲酒死亡事故で亡くなった学生の2021(令和3)年度追悼式を、5月7日(金)12:15から、同大学体育館追悼の碑前で行い、遺族をはじめ、穴沢学長ら学校関係者、学生代表約30名が出席。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を懸念して、報道関係は出席せず、今年度は少人数で開かれた。

穴沢学長は、「9年の月日が流れても、一人の尊い命が失われた事実は決して消えることはない。私たちもこの日のことを決して忘れてはならない。飲酒による事故を未然に防ぐことができなかったことを深く反省し、二度とこのような事故を起こさないことを誓う。毎年、この時期に誓いの碑の前で故人を追悼し、改めて、全学挙げて飲酒事故防止に取り組む強い決意を新たにした」と述べた。

学生自治会･廣吉和貴会長(3年)は、「悲しい事故が起きてしまったこと、事故を繰り返してはいけないことは、先輩から後輩へ今も語り継がれている。今日のこの碑の前で、改めて飲酒事故再発防止に努めることを固く誓う」と約束した。

遺族と学長･自治会長の4名で献花し、1分間の黙祷を捧げ、故人の冥福と飲酒事故の防止を誓った。

参列した遺族は、「グランドの奥の亡くなった場所へ行き、涙が出た。親は堪える。他の子どもたちには、このようなことが起きないようお願いしたい」と話した。

飲酒死亡事故は、2012(平成24)年5月7日に同大学のアメリカンフットボール部の部員が、大学内のグランドでバーベキューパーティを行なった際に、過度な飲酒による死亡事故が発生。新入部員だった1年生男子学生(19)が死亡する事故が起こった。部員50人を無期停学などの懲戒処分、同年7月に同部を廃部にした。

令和3年5月8日　北海道新聞
（朝刊/17面/小樽後志）
追悼式について

飲酒死亡事故
再発防止誓う
樽商大で追悼式

小樽商科大のアメリカンフットボール部員が学内で飲酒し1年生の男子学生＝当時(19)＝が死亡した事故から9年となった7日、同大で追悼式が行われた。

式は同大体育館前の「誓いの碑」で行われ、教職員や学生ら約30人が事故の再発防止を誓った。穴沢真学長が「事故を防げなかったことを深く反省し、二度と起こさないことを誓います」と述べた後、学生らは碑に献花した。

事故は2012年5月7日、アメフト部が大学グラウンドで開いた新入生歓迎のバーベキューパーティーで発生。参加した未成年者7人を含む9人が急性アルコール中毒などで病院に搬送され、男子学生1人が死亡した。（日野夏美）

追悼式で「誓いの碑」に献花する学生ら

令和3年5月9日　読売新聞
（朝刊/30面/道総合）
追悼式について

飲酒事故防止へ 学生ら誓い新た

小樽商大で追悼式

小樽市の小樽商科大で2012年5月、1年の男子学生（当時19歳）が運動部のイベントで急性アルコール中毒死した事故を巡り、事故発生日に合わせて7日、飲酒事故の再発防止を誓う追悼式が学内で行われた＝写真＝。

毎年この時期に行われており、穴沢真学長や故人の両親、学生代表ら約30人が列席した。学内の「誓いの碑」の前で行われた式典で、穴沢学長は「未成年の飲酒、飲酒強要の禁止の指導・教育を継続している」とした上で「一人ひとりが自らを律する行動をとる」と強調した。学生自治会長の広吉和貴さん(21)（3年）は「事故を繰り返してはいけないことは先輩から後輩に語り継がれている。改めて飲酒事故再発防止に努めていくことを固く誓う」と述べた。

令和3年5月9日　北海道新聞
（朝刊/26面/第3社会）
観光研究について

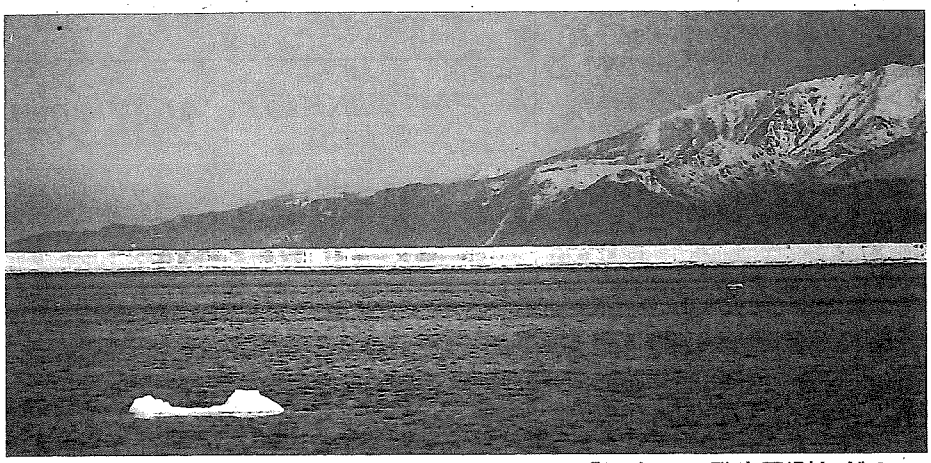
自然の神秘研究 観光資源に

統合 3国立大学
帯広・小樽・北見

北見に拠点 小樽でニーズ調査

【北見】北見工業大は、蜃気楼（しんきろう）など一定の地形、気象条件を満たした場合のみ見られる自然現象の発生を予測、地域の観光資源として生かすための研究グループを立ち上げた。同大は来春、小樽商科大、帯広畜産大との運営法人統合を予定しており、このグループには小樽商大の研究者も参加。文理が融合した研究の成果は、観光ツアーの開発などに役立ててもらう考えだ。

グループは今年3月に発足した。北見工大8人、小樽商大3人の研究者で構成され、オホーツク海沿岸で発生する蜃気楼などを研究している北見工大の舘山一孝准教授（雪氷学）が代表を務める。



今年3月にオホーツク管内斜里町で見られた「幻氷」。発生予測などの研究で観光資源化を目指す（舘山一孝准教授提供）

対象は、蜃気楼の一種で沖合の流氷が伸び上がったように見える「幻氷（げんひょう）」、冬の海岸や河口に打ち上げられる氷の塊「ジュエリーアイス」、厳冬期に湖面や川面の水蒸気が急激に冷えて花びらのように凍り付く「フロストフラワー」などを想定。北見工大側が同大の機器を使って発生条件やメカニズムを解明、場所や時期の予測につなげるほか、小樽商大側が観光ニーズ調査や観光資源としてのブランド化に向けた研究を行う。

本年度は、主にオホーツク管内で起きる自然現象を研究対象とする。2022年4月に予定される3大学の運営法人統合後は、グループを北見工大に新設される共同研究拠点「オープンイノベーション・センター」に移行。対象を十勝管内や道央圏の自然現象にも広げる。

舘山准教授は「地元住民の心も動かす美しい自然現象を観光資源にして、新型コロナウイルス収束後の道内観光を支えることができたら」と話す。（古市優伍）